

ブドウ「高尾」の早期成園化・安定生産に向けた栽培技術の確立

【研究概要】

特産品種「高尾」を中心に栽培されている東京のブドウ生産では、高樹齢化などの影響で樹勢が低下し、生産量の低下や着色不良果の発生などが問題になっている。これらの諸課題を解決するため、「高尾」の根域制限栽培やコンパクトな樹形の栽培技術開発を行い、早期成園化および省力的で高品質な安定生産技術について検討を行うこと。また、生産者から「高尾」の優良系統の選抜が求められていることから、生産者組織と共同で評価・選抜を行い、東京オリジナル品種としての維持・強化を図ることを目的に試験を実施した。その中で今年度は下記の2つ成果が得られた。

- (1) 定植4年目において、拡大型根域制限栽培で主枝長1 mあたりの新梢数、花芽着生枝数が多くなり、特に短梢剪定で多い。切り返し剪定では、結果母枝の基部付近からの結果枝発生が少なくなった。収量およびL房率は拡大・短梢で高く、1粒重、果皮色、糖度などの果実品質も高かった。管理作業時間は、剪定方法で比較すると切り返し剪定で短くなった。
- (2) 定植4年目の稲城優良系統は、開花期に系統間の差がなかった。房重は高稲1号、高稲3号が重く、果皮色は高稲1号が黒色に近かった。一粒重と糖度は系統間に差がなかった。